

令和5年2月26日

# 南の風 470

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

先日、中学校のスピカ教室の見学に訪れた指導者の方が、「大会で勝っていた試合を逆転され、負けてしまったんですよ」と話されました。話の様子から相当悔しかったことが伝わってきました。

読者の皆さんの中にも悔しい負け方を経験された方もいらっしゃると思います。私も経験があります。第1Qからずっとリードを保っていたのに、第4Qで逆転されたり、ずっと競っていた展開で、最後に1点差で負けたりしたことがありました。

バスケットボールは勝敗を争う競技ですから、勝ち負けはついて回ります。そして私は、敗戦の責任は指導者が取らなければいけないと思っています。大差で負ける場合、僅差で負ける場合、最後に逆転されて負ける場合など、試合の敗戦は指導者にあります。大差で負ける場合は、いろいろチーム事情があると思いますが、指導者が受け止め選手の成長を考え、指導・支援に当たらなければなりません。僅差で負けたのであれば、なおのこと指導者は原因を追究・分析しなければなりません。

今回はその原因追究の一助となる、クリティカルモーメントに付いて書きます。聞きなれない言葉かもしれませんが、『クリティカルモーメントとは、スポーツなどで勝敗を分けるような重要な一瞬のこと』になります。南の風で以前に取り上げたことがあります。

私がクリティカルモーメントという言葉を知ったのは、永くラグビー界を牽引した、故平尾 誠二氏の著書、『理不尽に勝つ』からです。以下、平尾 誠二氏の話から抜粋します。

平尾氏が『クリティカルモーメント』という言葉を読んだのは、イギリスに留学してラグビーをしているときに学んだ言葉だそうです。イギリス人はこの瞬間を見極めるのがとてもまいといいます。その瞬間が感覚で分かるそうです。それはおそらく普段の練習のときから、その一瞬一瞬を大切にしているからだといいます。一番驚かされたのは、「彼らはその一瞬を楽しむことを非常に大事にしている」とことだったそうです。彼らは何かを失うということを怖がらない。練習であっても「死ぬんじゃないか」と思えるほど激しいプレーをする、その瞬間瞬間にすべてを賭けてすべてを出し切る。それを彼らは「エンジョイ」という言葉で表現するが、そうであるからこそ彼らは、「クリティカルモーメント」を見逃すことがないのだという。

また平尾氏は次のようにも語っています。

日本の選手の「クリティカルモーメント」が鈍っているのは、対戦相手のデータを分析し、事前のシミュレーションをし過ぎているせいではないか、と疑問を投げかけている。データや情報が大切なことは言うまでもないが、シミュレーションを重視し監督やコーチの指示に従うだけでなく、ゲームの流れを見極めながら、選手たちは自らの判断でゲームを進めなくてはならない。

あまりにも安全・確実を求め過ぎて、選手がチャレンジする気持ちや冒険心を奪っているのではないか。一瞬の判断（決断）が一試合の勝敗だけでなく、その後の人生にとっても大きな分かれ道になることもある。

以上です。次号ではバスケットボールのゲームにおける、クリティカルモーメントに触れます。